静岡 ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER
2月3日土曜日
昭和48年（1973年）
発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　協会理事長堀田哲爾
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市住吉町9－6
電話　(0543)67－1970(清水ゴール)
編集専用電話66－5282(代)

PEPSI

第五回 静岡県少年団大会

ペプシ杯はどこへ！

今年の決勝戦は蒲原で

第五回静岡県サッカースポーツ少年団大会は各地区予選も終了、組合わせも発表されいよいよ二月四日（日）十一日（日）庵原郡下で県一とペプシ杯のゴールデンボールをめざして三十二チームの激突となった。

今大会までに各地区支部長をはじめ関係チームの代表者によって行なわれた予選の結果から、勝敗の予想とチームの特色を紹介してみたい。

小学生少年団九十四チーム、中学生少年団六十四チームの中から勝ち抜いて来たチームどのチームをみてもまったく力の差はづけにくいが、小学生少年団はまず、藤枝中央と藤枝少年団と清水代表の江尻、入江、有二の五チームにしぼられよう。

浜松の佐藤少年団、静岡の久能があるがベスト4はむずかしかろう。一発勝負となると地元の由比あたりがかえっておもしろいかもしれない。

写真上　第三回東海大会優勝の清水八中少年団
写真下　優勝の声が高い小学生少年団　中央チーム

チームにしぼられよう。

ダークホースとして浜松の佐藤少年団、静岡の久能があるがベスト4はむずかしかろう。一発勝負となると地元の由比あたりがかえっておもしろいかもしれない。

榛南細江と自疆は最近にないスピードのあるチームで期待できそう。しかし細かいプレーにやや、弱いところがある。

結局ベストには中央、入江、江尻、藤枝であろう。

中学生少年団大会は第二回目になるが、昨年優勝の高松を中心にこれまた小学生同様に予想はむずかしい。

ここでは藤枝と西益津の藤枝勢と、八中を中心とした清水勢、そして昨年県大会で大あばれした北星、西部蜆塚、南陽の浜松勢の三つどもえ戦であろう。

特に昨年度県大会優勝の北星の力はあなどれない。大富、広幡も予戦の激戦地を勝ち抜いて来ただけにダークホース的存在。清水五中、三中由比中はやや、力にむらがあるが地域的な強チームであり期待したい。

東部の吉原一中も初参加ではりきっている。大里、高松の静岡勢も特に大里の一年生にテクニシャンがおり使い方によってはおもしろくなりそう。高松はねらうは二連勝であるがや、むずかしいところもある。聖光は都会的なサッカーをやるが幸運を呼ぶチームだけに期待したい。

ベスト4は八中、高松、藤枝、北星ではないだろうか。

どのチームも一年生をどのように使うかによって左右しよう。

しかし清水JC大会では和田島に7－0と負けており調子のよし悪しが大きいから心配。

浜松の芳川も初参加であるが、戸田氏に育てられた強チームと、ダークホースの声もある。

志太の大井川西も常勝岡部を破っての参加で調子にのるとこわいチーム。

静岡の青葉、服織は小さくまとまったチーム、東部代表長泉は結成六ヶ月で代表を取ったことに全力をそそぎたいところ。

榛南細江と自疆は最近にないスピードのあるチームで期待できそう。しかし細かいプレーにやや、弱いところがある。

結局ベストには中央、入江、江尻、藤枝であろう。

中学生少年団大会は第二回目になるが、昨年優勝の高松を中心にこれまた小学生同様に予想はむずかしい。

ここでは藤枝と西益津の藤枝勢と、八中を中心とした清水勢、そして昨年県大会で大あばれした北星、西部蜆塚、南陽の浜松勢の三つどもえ戦であろう。

特に昨年度県大会優勝の北星の力はあなどれない。大富、広幡も予戦の激戦地を勝ち抜いて来ただけにダークホース的存在。清水五中、三中由比中はやや、力にむらがあるが地域的な強チームであり期待したい。

東部の吉原一中も初参加ではりきっている。大里、高松の静岡勢も特に大里の一年生にテクニシャンがおり使い方によってはおもしろくなりそう。高松はねらうは二連勝であるがや、むずかしいところもある。聖光は都会的なサッカーをやるが幸運を呼ぶチームだけに期待したい。

ベスト4は八中、高松、藤枝、北星ではないだろうか。

どのチームも一年生をどのように使うかによって左右しよう。

静岡代表の横顔

高松中（静岡一位）

昨年度中体連の県大会まで出場したのが現在の二年生、FW藪崎谷口、HB石川とテクニックのある選手が多くボールに対する執念がありボールの回転が早い。試合経験は豊富で第四回少年団大会で優勝し、連続優勝をと全選手の意気は上がっている。

聖光中（静岡二位）

部創立三年にして出場を得た。三年生が四名入っている関係もあるが荒けずりでキックアンドラッシュ型、シュート力が欲しいチーム。

大里中（静岡三位）

GK大石を中心によくまとまったチームだがおとなしく、ゴール前のチャンスを逃がしては試合に泣いた。調子に乗るとよく走るだけに得点もする。

第三回ナイターリーグ

新加入チームも連日大熱戦！

第三回ナイターリーグは十二月七日より二十チームの参加で連日行なわれているが、新チームの参加もあってなかなかの好試合が行なわれている。

商店のチームでは初参加の中満チームも渡辺コーチを中心に、好成績の育ての親、平木理事長の大塚陽久氏である。

平氏がおり、その下部に藤枝の高橋氏、清水山本氏、中井氏のコンビネーション指導もよい。芳川の戸田氏はコーチングスクール卒業生で理論と技術が一致した指導をしてチームも強い。高台の大沢氏、豊西の小池氏、東の伊藤氏も指導力がある。

以上県内の少年団指導者であるが、少年指導ほど指導結果が出るものもめずらしい。指導者の熱意はそのまま子どもが受けつぎゲームに表われてくる。

少年指導はサッカーだけ教えるのではなく全ての面でできびしい人間に育てるべく努力したいものである。

試合の連続ではりきっている。試合が練習とあって応援にも熱が入っている。

庵原農協も合併で清水農協と改名し、あらたに新人五名を入れて参加、日本鋼友会も今まで若手からOBにきりかえBリーグで活躍大勝コーチ、松下キャップテンで大はりきり。前リーグでのA優勝の波にのって現在全勝。

初参加の清水市役所も経験者は少ないが若さとスピードのチーム。日軽の社内チームあすなろは名前のようにあすなろ的存在。

ナイトキングゴールはクラブを二分してABに参加、特にAチームは芙蓉解散と同時にそのメンバーを補強し無敵のチームとして再出発。

松坂屋チームも桜井氏を中心に若い年代でまとまり好チームである。新星、横砂、三保クラブも若手の補強でますます強くなっている。

連続優勝をねらう江尻クラブは、スターの塩沢を入れての再編成であるが、やゝつかれぎみで国分代表も頭がいたい。

サンセット11も清水のジョージベスト松永氏を中心にまとまったチーム。ユース代表の大多和氏もはりきっている。

二十チームどのチームも充実しており、三回目を迎え運営方法もなれ、明るい見通しのあるナイターサッカーである。

静岡県少年サッカーのコーチ人脈をさぐる！

現在のスポーツ界で水泳とサッカーが最も社会体育化しているといわれているが、そのサッカーの中でも百パーセント社会体育の立場で活動しているのが小学生少年団である。今回はその指導者をさぐってみたい。

東部地区で最も少年団員の身分で少年育成に努力している。

長泉の稲垣氏も若さで指導テクニックを練習量でカバーしている。

伊東の高橋氏もむずかしい地区で一人気をはいている。

富士川の山田氏、蒲原東の弓場氏、由比の望月、杉山氏も熱心だ。

この地区をまとめているのが野沢通春氏、彼は元体操の選手であったが、サッカー技術もなかなかである。

清水地区には全国にもうらやましがれるコーチが多くいる。辻の鈴木石根氏、不二見の斉藤氏、江尻の西井陸夫氏等であるがこれらの人は皆他のスポーツの一流選手から勉強してサッカーコーチになったのである。この指導をしたのが現理事長の堀田哲爾氏である。

十年前の指導者講習会は今はユースコーチングスクールとして開催され、若手が現在も入校してコーチ学を勉強している。

辻の鈴木淳氏、入江の深沢氏、不二見の深沢氏、有一の中島氏、西河内の巻口氏、飯田氏、ファイターズの押見氏、高部の望月史郎氏、庵原の竹下氏、江尻の中山氏等である。

この若手をあたたかく育ててくれているのが先輩コーチであるがその中には小島の小花公生氏、入江の平岡正義氏、庵原の増田昌弘氏等の力は大きい。又この地区には女子チーム強化中心にいるコーチがいる興津の志村氏中河内の加藤修明氏である。又少年サッカーコーチは女性でもできるという足がかりをつくったのが飯田の押見氏、女子チームのあこがれでもあり、二代目をめざし女子指導者がでて来ている不二見の高橋さん、三保一の堀さん、清水工高生松本洋子さんもサッカーコーチをめざしている。

辻の中島氏、飯田の小田切実氏、入江の内山氏、小島の川崎氏、浜田の岸山氏、袖師の加藤、青木、鈴木氏、三保の塚本氏も育成会として又直接のコーチとしてもがんばっている人たちである。有度二の小島、杉本の両氏もここ二、三年特に目立ってきた。

静岡はここ二、三年チーム数が増えてきたが、八木茂氏を中心とした育成会の力といってもいいすぎではない。

久能の浜田氏、中島の長島栄二氏、城内の納谷氏、麻機の菅沼氏、服織の鈴木氏、大谷の中村氏が中心的コーチ。若手では横内の成島氏に期待したい。

志太地区では岡部の梅原、増田氏と最近特に力をつけてきた大井川西の杉本正義氏がいる。

焼津は最近力をつけたコーチがいるが小林杉本氏以外は未知数。

藤枝には少年指導育成の育ての親、平木理事長の大塚陽久氏である。可美の服部皓一氏も指導熱心である。佐藤の山本氏、中井氏のコンビネーション指導もよい。芳川の戸田氏はコーチングスクール卒業生で理論と技術が一致した指導をしてチームも強い。高台の大沢氏、豊西の小池氏、東の伊藤氏も指導力がある。

以上県内の少年団指導者であるが、少年指導ほど指導結果が出るものもめずらしい。指導者の熱意はそのまま子どもが受けつぎゲームに表われてくる。

少年指導はサッカーだけ教えるのではなく全ての面でできびしい人間に育てるべく努力したいものである。

榛南には秋野氏の指導のもとに細江の辻岡氏、自疆の鈴木氏が熱心。住吉の有馬氏、金谷の鈴木登氏、大井川東の鈴木学氏に期待したい。

浜松では地域指導者と学校内指導者とのコンビを持った清水方式の理想的な型で活動している。その指導をしているのが少年団支部長の大塚陽久氏である。可美の服部皓一氏も指導熱心である。佐藤の山本氏、中井氏のコンビネーション指導もよい。芳川の戸田氏はコーチングスクール卒業生で理論と技術が一致した指導をしてチームも強い。高台の大沢氏、豊西の小池氏、東の伊藤氏も指導力がある。

以上県内の少年団指導者であるが、少年指導ほど指導結果が出るものもめずらしい。指導者の熱意はそのまま子どもが受けつぎゲームに表われてくる。

少年指導はサッカーだけ教えるのではなく全ての面でできびしい人間に育てるべく努力したいものである。

ワンポイントサッカー❻

JFAコーチ堀田哲爾

ボールを止め自分の支配下におき次の動作に入ることをサッカーでは「トラッピング」といいます。

特にこのトラッピングの中ではボールを止めることが重要で、そのことだけをぬき出してストッピングと呼ぶこともあります。

あたま、もも、インステップ、インサイド、ヒール、どこの場所でも正確にボールを止め自分の仕事がやりやすいところへ持っていくわけです。

ボールを常に身体の中心でとらえることと動いての練習をくりかえす事が大切です。

ボールリフテングをやることによって、特にストップの技術は高まります。忘れてならないことはボールを止めることだけでなく、次の仕事にうまく連絡できる動きがたいせつであることです。

サッカー金言集❻

ノーボイス、ノーサインのプレーこそ真のチームプレーである。

作者不明

力強く、精力的で、有能な人とは、情熱的な霊感の満ちている間に彼らの考えを実行する人のことである。

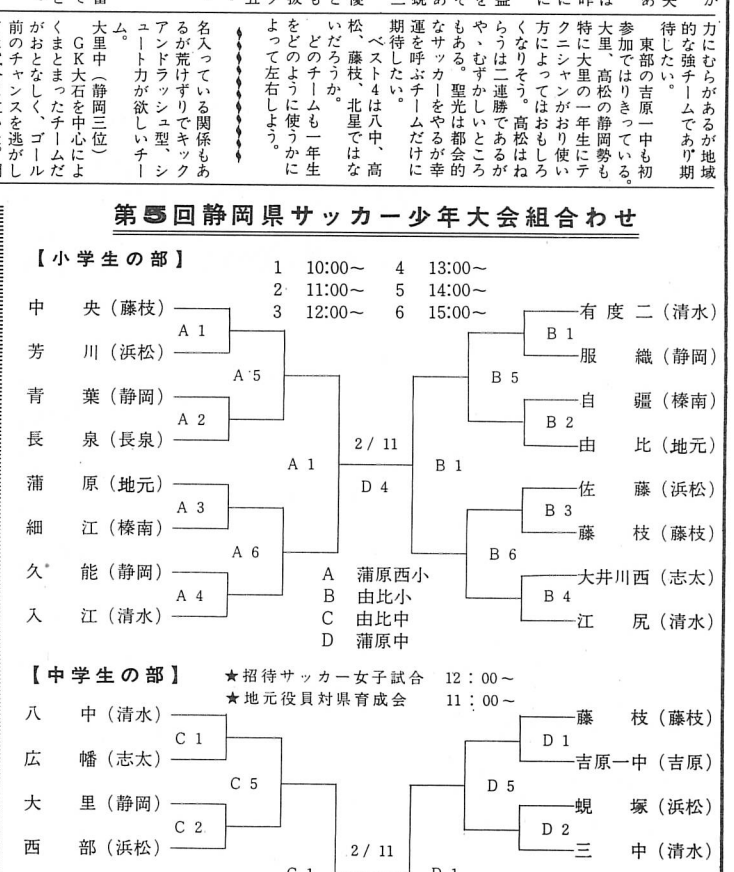
オリソン・マードン

編集ノート

◆一月二十八日、清水市営グランドでの第二回招待試合の観戦に訪れた人で国鉄清水駅の乗降客は大混雑であったらしい。快晴に恵まれてのゲームはその内容と共に観戦のファンを大いによろこばせたことであろう。◆だがこのところ、相次いでいるスポーツ選手の交通事故は、一月二十日から月末までに大きなものだけでも三件、世界チャンピオンの大場、体操の加藤、騎手の樋口、いずれもその道では大いに期待されていた青年たちである。一夜明けたら世界チャンピオンが悪質な交通事故の加害者になったりリングのマットの上でなく高速道路上で自爆したり、昼はサラブレットに乗る職業だから夜はホステスを乗せる方に廻るというのか。◆事故発生の原因はどうであろうと、この青年たちが同情されないことだけは絶対である。

（二本木）

第5回静岡県サッカー少年大会組合わせ



清水J.C.大会

女子の部は興津 全タイトルを取る 市長杯は入江に！

一月二十一日 清水市青年会議所、清水サッカー協会共催、清水市教育委員会後援の第五回清水市少年少女サッカー大会は、清水市営グランドで千人の観衆を集めて行なわれた。

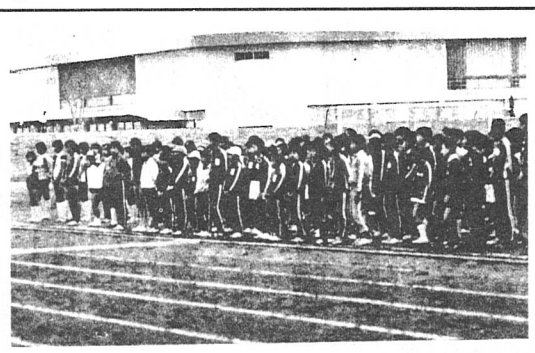
今年の決勝進出チームは、一回戦から苦戦チームが多く、決勝進出の十四チームの内七チームが抽選勝ちして来ているチーム。

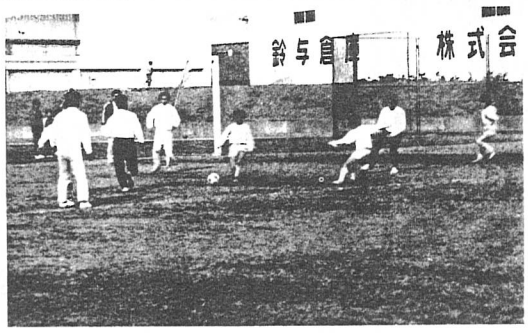
特に小学校準決勝の三部門六試合は三試合が抽選となり、全国高校選手権なみの試合となった。技術が非常に接近し、一つのミスが試合を左右する場面が多くなった。

試合はジュニアー女子は興津が庵原を3対1とやぶり初優勝。女子王国興津にまたその名をつらねた。

ジュニアー男子は和田島に1対1と苦戦し運良く抽選勝ちした辻が有二ジュニアーを圧倒3対0の大差をつけ楽勝、この部門で二連勝をかざった。

女子の部は宿命の対決、中河内対興津となったが個人技の中河内に対してスピードある攻撃をする興津が数少ないチャンスを生かし2対0と思いがけない勝利となり、第五回静岡県少年サッカー大会の女子招待試合への出場権も獲得した。





少年五年の部は 飯田ファイターズが

少年五年の部は全市二十五チーム参加で熱戦をくりひろげベスト4には順当に辻、入江、有二、飯田FAが勝ちJCの王座を奪回した。

初優勝に喜ぶ押見氏は「これからが大変です。追われるチームになってしまって……でも気持ちはいつも追うチームカラーで行きたい」と来年度に期待を持てる発言をしてくれた。

飯田FAは有二を一方的にせめ3対1で初優勝、王座決定でやぶれた後、今年度の初優勝を一方的にせめ3対1で初優勝、王座決定で戦をくりひろげベスト4には順当に辻、入江、有二、飯田FAが勝ちJCの王座を奪回した。

初優勝に喜ぶ押見氏は「これからが大変です。追われるチームになってしまって……でも気持ちはいつも追うチームカラーで行きたい」と来年度に期待を持てる発言をしてくれた。

久能 市民大会に優勝 本年度四タイトル独占

十二月十七日第十六回静岡市市民サッカー大会の小学、中学、一般のそれぞれの決勝が大里中学で行なわれた。

その結果、小学の部Bゾーンで久能Cが横内Bを4対0で、AゾーンでA久能Aが服織Aを4対0で破り、それぞれ優勝した。

これで本年度は新人戦、リーグ戦、市民総体についで四つのタイトルを独占したわけで、監督として選手の努力を大いにたたえたいと思う。

最近では、静岡市小学生のサッカー熱もようやく高まりをみせ、参加チームの増加（現在十六校）と共に個々の技術、戦力も著しく進歩するようになってきた。これは市育成協議会の長島栄一理事地を中心とした各指導者の努力の結果であり、我々の優勝もこれらの人々の暖かい育成を除いては考えられない。

久能のサッカーも今年でまる五年目をむかえたわけであるが、全校二百五十人足らずの人数で、全くの素人が指導にあたっているわけで、現在までの数々の好成績も、正直の所いささかできすぎの感がある。

しかし本年度の県大会には、ぜひ全力を出して力いっぱい健闘したいと願っている。

久能サッカー少年団指導者 浜田真人

有度二は入江に善戦！

JC二連勝をねらう有度二チームと、部門勝利四連勝をねらう入江は最初からはげしいあたりで対戦。特に有度二は森をCFにあげてたてパス一本で勝負にでた。

中盤は入江の志田、栗田で八分通りをおさえ、両チーム力の入った試合となったが、FWに個人技のまさる浜口、新井、八木をもつ入江が三点の大差をつけ、四連勝の偉業をなしとげた。

初参加の由比が勝つ 八中と一中が引分け

昨年から部門に入った中一は各チーム調整中と由比中が残り由比のパワーに三中が追いつかず2対1で由比が初優勝をかざった。

県大会中学の部が由比地区で開催されるだけに、よい前祝いができたと庵原郡下の先生も大喜びである。また今年度新しく新設された中二の部門では、八中が庵原中と準決勝で1対1の抽選勝で決勝に進出して来たが六中、両中をやぶって来た一中と対戦、志田、鈴木、栗田のスピードある攻撃で一中を圧倒したが点にならず引分けに終わった。

【第5回JC大会部門別成績順位】

	優勝	準優勝	三位	三位
女子J	興津	庵原	二江	高部
少年J	辻	有二	入有	有江
5年男	飯田FA	和田島	河内	高部
6年男	入江	和田島	和田島	庵原中
女子	興津	中河内	八河	庵原中
中1	由比中	中三	中中	庵原中
中2	八中	一中	三中	庵原中
招待試合	全清水	2－1	JC	

PEPSI

サッカー医学 ❶

サッカーをやって 丈夫なからだをつくろう！

どんなよい種子をまいても、畑が悪いと芽が出ません。作物や植物に虫がつくのも、弱い葉や木ばかりですしかりに強い植物についたとしても、栄養の力や、太陽のエネルギーによって、虫に打ち勝ってしまいます。病気も同じことで、病気のつき易いからだと、つきにくいからだがあります。

細菌もすみ心地が良いと繁殖し、すみ心地が悪いと段々衰えて死に絶えてしまうのです。「傷負け」「化膿」する人は、どんなに良く消毒をしても化膿し、傷負けしない人は泥水で洗っても化膿しません。それは体内の白血球とリンパ球（大食細胞、食菌細胞）が好んで体内に浸入して来た菌をパクパク食べてくれるからです。膿やタンはその時食べられた菌の残骸や、不幸にも戦いに敗れて菌に食い殺された白血球、リンパ球の戦死者です。

その戦争で起こるエネルギーが実は発熱現象なのです。しかも良いことには、白血球、リンパ球は熱には非常に強いが、ビールスは反対に非常に弱いので、ビールスを弱らせて殺すために自然に体から発熱現象が起こるのです。この戦争に白血球が食い殺されて負ければ病気、逆に食い殺して勝てば平熱となり治癒となるのです。ちょうどベトナム戦争のようなものです。

それには栄養という物資が大量に必要です。日頃から大いに食べて貯え、自然治癒能力を養っておきましょう。

戦時中から終戦直後にかけて、食べる物のなかった時代に、（筆者もその一人だが）日本人の三人に一人は結核を患った。しかしたとえ結核患者と同居していてもうつらない人もいれば、マスクをして気をつけていてもうつる人もあります。

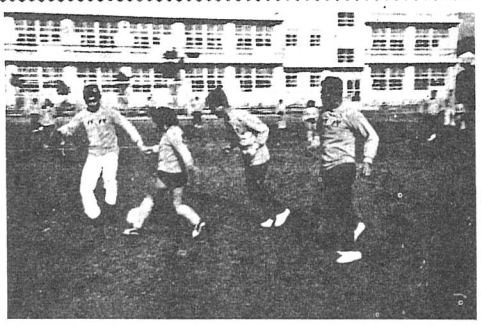
これもやはり栄養と抵抗力です。結核菌を食い殺してしまう強い白血球とリンパ球は栄養から生まれます。癌にかかる人は、癌の細胞をとかす力が体にない人です。捻挫、脱臼、骨折をする人は、例外を除いて、筋肉の弱い人に多いようです。

病気にかからないからだ、ケガをしない丈夫なからだをつくりましょう。それには栄養をたっぷりとって、太陽の下でサッカーをやって、たくましく鍛えることです。外人選手にはしきとばされてこわされないような、ガッチリとしたからだをつくりましょう。

食べろ！

栄養のあるものをもりもりと！

日本整骨医学会会員 水島虚雪



写真は1月1日パパファイターズ対女子ファイターズの試合

続 少年サッカーとチームプレー

親子の対話

正月天皇杯サッカーテレビを見ていた子どもが、父親をつかまえて、こんな話をしていました。

「おとうさんは小さい時スポーツをしていた？」

「おとうさんはな、昔は郡の大会でものすごくはやかったんだぞ」

「何をやったの」

「陸上だよ、昔は陸上しかなかったさ。村をあげての応援ではりきったものだっけ……」

本当に昔は村をあげて応援もしたし、村のためにがんばった人がたくさんいました。そしてみんなが夢中になって走ったのです。

今夢中でスポーツを楽しんでいる子どもは全体の何パーセントかなと考えると、いま勉強勉強と追われている子どもが子の親になった時、どんな話をするのかなとさみしくなります。

ところが先日、清水で親子のサッカー大会に招かれた、会場に行ってびっくりしたことは親子が本気でゲームをやっていることでした。

もちろんテクニックは子どもの方がうまいが、体力にまかせて親は思いきり子どもにぶつかり合う姿は、何ともいえぬ美しいものをみた感じでした。

親子の会話不足とか断絶の声を聞く中に、これほどの親密感をはだで感じたことはありませんでした。おそらくこの親子関係は家庭においても続き、平和で明るいチームをつくっていくと信じるとともに、この子ども達が自分のチームをつくって試合をする時にも、自分の家で父や母が自分のスポーツをこころよく感じはげましてくれることを知っているために、思いきったプレーができるのです。

本当にチームプレーのできる子は、そのような環境の中で育っていることだと思います。どんな相手でも全力をつくし、自分の力を出し切っている子どもをみて、少年サッカーの良さをあらためて見た感がありました。（哲）

渋川君 日本一！

全日本ボールリフティング 五月に世界大会に出場！

十二月末、読売ランドで行なわれた第三回全国ボールリフティング大会に出場した、静岡城内サッカー少年団、渋川尚史君が日本新記録の一万六千回で見事優勝、同じく小原昭洋君も五位に、小学校六年生の宮原真司君も第七位となった。

このゲームはボールを足や頭で何回つくかのゲームで、世界記録は十九時間つき続けたという記録があるくらいで、世界大会出場の渋川君も大変である。

本人はこれからはボールリフティングよりもゲームの中で一流のプレーヤーになりたいとも中学二年ながら一流である。

世界大会での活躍を祈る。

サッカーの店 訪問 ❸

静岡市 清水屋

3Sのマークの店を知っていますか？サッカー仲間では日本一使いやすいパンツとして知られています。この発売元が藤枝の清水屋です。

もともとこの店は洋品店で、各種製品をオリジナルしていたが、店主山本直さんのサッカー好きがいつの間にかサッカーの店にしてしまった由。

直さんはサッカー少年団指導の草分けでもあり、藤枝サッカー少年団の指導者でもある直さんによって、ニュースタイルのユニホームを期待したい店である。

県大会榛南地区は 細江少年団が 四年間連続出場！

全国的力をもった藤枝、清水の強豪チームが存在は静岡ユースサッカーの紙面でも大きいが、大井川をはさんで藤枝の西隣りにある榛原細江少年団はあまり知られていない。

大井川を越したこの榛南地区は、今でこそ八つのサッカー少年団があるが、第一回当時は三少年団しかないというサッカー熱の低い地区であった。

細江少年団は五年前第一回県大会から昨年までに出場権を失したのはただの一回というこの地区の中心チームである。

細江チームは、目だったエース的存在がないかわりに、団員四十五名というサッカー底辺を広げたチーム。地味だがまとまりのあるチームである。

榛南地区の悩みは、藤枝、清水地区のような専門家の指導がないことだが、このチームの監督辻岡義啓教諭は第一回県大会から継続監督のキャリアをもち、コーチの松浦宣昭教諭も若さにものをいわせて大変な熱の入れようである。

また今年のチームの強みは、団員ひとりひとりがサッカーのムシだということである。

自らサッカーの専門書を読み、指導者にたよってばかりいずに朝早く登校して団員同志猛練習する。

団員は比較的体格に恵まれ、スピードある走力を生かしきることが目標である。

細江小（Bブロック1位）
住吉小（Aブロック2位）
中央小（Bブロック2位）
自彊小（Aブロック1位）

★チーム紹介★

吉田町自彊サッカースポーツ少年団

オレンジのユニホームに輝のマークを入れたチビッコチーム。

チームの誕生は確か昭和四十年、ことしで七年めを迎えたことになる。山本宏（現吉田中央小教諭）鈴木登（現金谷小教諭）の両監督の熱心な指導のあとを受けて、本年は佐藤恒次監督が指導をしている。

大井川河口にある、吉田町は、うなぎの産地として知られた土地柄だけに、選手は小粒ながら小まわりのきく器用な選手が揃っている。ボール運びもあざやかで、確実な連けいパスができる。ハーフには器用な三人を擁しキーパーは試合度胸があり、ピンチに強い。特に傑出した選手はいないが、チームワークのよいまとまりを信条に、本年度、榛南リーグ戦では無敗である。

今後は藤枝地区のチームとの練習試合の機会を多く持ち、精神面でも鍛えられたチームとなり、更に躍進を期待されるチームである。

榛南地区の好敵手 自彊か細江か

県大会への二枚のキップを目ざして、十二月三十日、八チームによる予選リーグ、正月五日には決勝トーナメントが行なわれ、県大会への出場チームが決まった。

優勝の自彊少年団、準優勝の細江少年団とも、榛南の古豪で走力のあるチームである。

両チームとも、県大会において二回戦進出ができれば県大会でも有望である。

榛南地区には、この細江チームと同じ第一回県大会から結団している自彊チームがある。

細江チームの好敵手がこの自彊チームである。

細江チームの夢は、県大会に出場して藤枝清水チームと肩を並べて試合できるチームに成長し、榛南地区のサッカー熱を高めることである。

サッカーの虫

和田島小 六年 望月祥之君

六年前、ぼくが小学校に入学したころ、サッカーが学校で、はやりはじめたのです。しかし、ゴールもなく、サッカー部もありませんでした。

しかし、少したつとサッカー部もできました。ぼくは、このころからもうすでに、サッカー部にはいりたいなと思っていました。また、サッカーにあこがれていました。そして結局サッカーは、ぼくの小学生時代の中心のものになってしまったのです。

ぼくは今、サッカーをやってきて、ほんとうによかったなと思っています。それは、サッカーというスポーツは、ぼく自身を今のような自分にしてくれたからです。

サッカーがどういう面で、いまのような自分にしてくれたか……。ぼくは小さいころ、家の人、おかあさんやおとうさんがいなければなにもというくらいできなかった。しかし、サッカーでいろいろな大会に出て、名古屋や神戸などに行き、おかあさんやおとうさんがいなくてもなにかができるようになった。自分に実行力がついたということです。ほかには、健康なからだがつくれました。また、勉強やいろいろなことをしました。

ぼくはこんな面で、サッカーをやってきてよかったとおもっています。ぼくは、サッカーに感謝しています。

ぼくが小学生になって一番初めに困ったことは、ガラスをわったことです。上級生が校舎のはめに、サッカーボールをあてていたので、ぼくもついまねをしてやってしまった。

すると「ガチャーン」と音がして、ガラスはバラバラになってしまいました。ぼくは一年生のころは、はずかしがりやで、先生にいうのがこまったことがあります。ほんとうにこのことはこまってしまいました。

ぼくは一・二・三年のころは、サッカーにばかりむちゅうで、勉強という勉強は、そっちのけでした。ぼくは今になって、もっと勉強をやっておけばよかったなと思います。

ぼくが、あとでいつもこう思うのがぼくのくせです。はじめから全力でぶつかればよかったんです。しかし、はじめから全力でぶつかるということは、あとのことを考えると、なかなかたいへんです。だからいまだに、そのくせがなおりません。どうしてもあとでこういうようにしています。

ぼくは、小学生時代の間に、このくせをなおせなかったのが、心残りです。しかし、まだ、小学生時代が何か月かある。その少しの時間だけでも、くせをなおすように努力したいなと思います。

ぼくは一・二・三年のとき、サッカーと勉強のうち、サッカーのことしか考えていなかった。しかし、今はちがう。今は、サッカーにも勉強にも、自分では努力しているつもりです。だけど、この勉強・サッカー両方とも いっしょうけんめいやることが、少しおそかった。もっとぼくは、この考えを、はやく実行すればと思っています。しかし、ぼくには中学もある。中学でがんばればいい。しかし中学になってまた、高校があるからいいではいくらやってもしようがないと思います。

ぼくは、中学ではじめから、スポーツ、勉強両方ともいっしょうけんめいやっていきたいと思います。

ユースサッカーのお申込みは！

本紙をお読みになりたい方は購読料20円切手12枚を清水サッカー協会内「ユースサッカー編集部」宛郵便番号住所、氏名、職業、年令を記入お送り下さい。

清水市内の方は、住吉町九の六 清水ゴール真砂町三番地 中島新聞舗 電話（66）五二八二へお申込み下さい。お宅までお届け致します。